

# ～令和3年度 大山小学校の取り組み～

## I 研究主題名

### 自分の思いや考えを他者を意識して伝え合うことができる児童の育成

—主体的に考え表現する場面を設定し外国語を用いてコミュニケーションを楽しむ授業づくりを通して—

## II 研究主題設定の理由

現代社会は知識基盤社会であり、こうした社会認識は今後も継承されていくものであるが、近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて加速度的に進展するようになってきている。そんな時代を生き抜いていく子どもたちには未知の世界を切り拓く逞しさが不可欠であり、主体的に向き合って関わり合い、自ら問いをもちその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められる。

今年度より平成29年3月に告示された学習指導要領が施行される。外国語・外国語活動は、外国語を用いて尋ね合い、伝え合い、コミュニケーションを楽しむことのできる児童の育成をねらいとしている。また、「話すこと」が[やり取り]と[発表]の2領域に分かれ、より自然な[やり取り]や自分のことをわかりやすく伝えるための[発表]を行う。話しやすさ・伝わりやすさ・わかりやすさ等を他者へ配慮しながら思考・判断・表現することでコミュニケーションの素地(基礎)となる資質・能力を育成するのである。

本校においても、宜野湾市のこれまでの取り組みをいかし、高学年は教科としての外国語を実施、評価し、低中学年は外国語活動を再構築する。英語を使って思いや考えを伝え合う言語活動を通して、自他をたいせつにするコミュニケーションの素地・基礎を育てていきたい。そのために、相手の発する外国語を注意深く聞いて、相手の思いを一生懸命に理解しようとしたり既習の知識を活用して、相手や他者に自分の思いを何とか伝えようとしたりする体験を通して、言語によるコミュニケーションの難しさや大切さを体得し、人と関わることの楽しさや喜びを感じられるようにしていきたい。

以上のことから外国語・外国語活動のメインテーマを「自分の思いや考えを、他者を意識して適切に表現することができる児童の育成」とし、サブテーマを～主体的に考え表現する場面を設定し外国語を用いてコミュニケーションを楽しむ授業づくりを通して～とする。

## III 学年・領域

今年度は高学年が教育出版社の教科書『ONE WORLD Smiles』を活用し、教科としての外国語を実施する。中学年は昨年度と同様に文科省発行の『Let's Try』を活用する。外国語・外国語活動を「思考・判断・表現」する場面を設定し、尋ね合い伝え合い、コミュニケーションを楽しむこととする。教師自身が学びのモデルとして授業実践し、外国語・外国語活動を楽しんでいきたい。

### 低学年

・あいさつ(自己紹介)・気持ち  
・天気・曜日・色・形・くだもの・野菜・動物・体の部分・数・伝統行事

※絵本を活用した授業

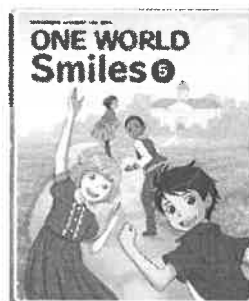
※体を動かす活動

(歌・ダンス)

### 中学年



### 高学年



#### IV 研究主任と組織

**ALT・JTE:コミュニケーションの相手 英語モデル**  
英語の発音を聞かせ、自然な表現をinputする。  
できる子をみつけるのが上手→ほめる役割

**HRT:コミュニケーションの相手 学習モデル**  
授業をデザインする。授業をコントロールする。  
つまづいている子への支援が上手→励ます役割

↓

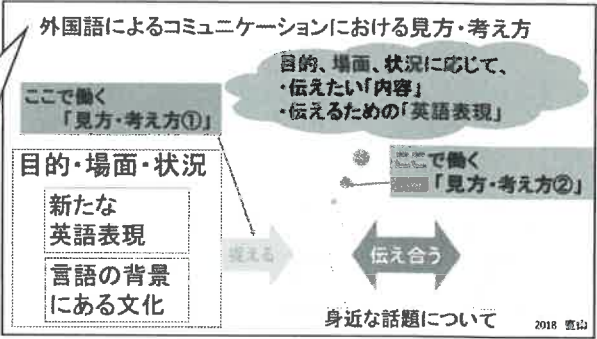
それぞれが役割を果たすことで、児童が「英語を使ってコミュニケーションできる」授業になる。言いたいことが英語で言えるようになる。  
学習への意欲・英語への興味・関心

◎HRT：授業をデザイン  
・学習モデル

◎ALT・JTE・HRT：  
コミュニケーションの相手

◎ALT・JTEとHRTの  
役割の分業と共同

育成すべき資質・能力として「①知識及び技能の習得 ②思考力, 判断力, 表現力等の育成 ③学びに向かう力, 人間性の涵養」の3つの柱が明記され, キーワードの一つである「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の必要があるとしている。



- ①外国語担当・・・宜野湾市教育委員会と連携し、外国語・外国語活動の推進を行う
- ②学級担任(HRT)・・・外国語・外国語活動の授業と評価を行う  
(低中学年：文章表記 高学年：評価)
- ③ALT・JTE・・・授業でのHRTの補佐を行い、授業で活用する教材づくりを行う

#### V 年間研究計画

	英語授業		宜野湾市特例地域	学校行事
1学期	5年6年	1-4年	<b>【4月】</b> ALT・JTE 研修  <b>【5月】</b> 英語主任研・予算説明会(未定) 特例地域研修案提出 ○教育委員会によるALT・JTE 授業参観	4/7 始業式 4/8 入学式  7/20 終業式
2学期	HRT JTE (ALT)	HRT ALT (JTE)	○教育委員会によるALT・JTE 授業参観 ○教育委員会による研修会(仮)  <b>【12月】</b> 英検 Junior(5・6年) 英会話形成テスト(1~4年)	9/1 始業式 11/7 運動会 <b>9/28-29 修学旅行(6年)</b> 10/5 自然体験学習(5年) 12/24 終業式
3学期			<b>【2月】</b> 決算・報告書提出	1/6 始業式 2/15 到達度調査 3/23 卒業式 3/24 修了式・離任式

○ALT/JTEの担当学年を前半と後半で入れ替える。

## VI 授業の実際

### 第5学年 外国語活動学習指導案

#### 1 単元名 Where is the station

One world 1 (文部科学省 教材)

年間指導計画 1月指導内容

#### 2 単元の目標

- さまざまな施設の表し方を知って、言ったり書いたりすることができる。(知識・技能)
- 行き方をたずねたり、案内したりする表現を知って、言うことができる。(知識・理解)
- 行き方をたずねたり、案内したりするやり取りができる。(思考力・判断力・表現力)
- 行き方をわかりやすく案内しようとする。(学びに向かう態度)

#### 3 単元について

##### (1)教材観

本単元では、目的地への行き方を分かりやすく案内すること、相手に場所を尋ねる表現を学習する。それについて、聞いたり話したりすることは、学習指導要領の目標にも合致している。そこで本単元では、これまでに学習した基本的な建物や場所、校内にある教室の言い方を使って、相手意識をもちわかりやすい道順を考える事、様々な状況に合わせた道順を伝え合い積極的にコミュニケーションを図る姿勢を育てるためには効果的な教材である。

##### (2)児童観

###### ①単元・教材に対する児童観

本教材は、道案内を題材としている単元であり身近な建物や校内にある教室の言い方を使う。それに加え Lesson6 で学習した Where is~?を使って場所を尋ねる表現を学習する。道案内は相手意識をもちコミュニケーションをとることが必要とされる。そこで児童がこれまでの表現を使い積極的に伝え方を考える活動とする。児童は今年度山形県の小学生と交流を持つ機会を得て地域のことを他県の人々へ伝える交流をした。交流学習をしたばかりの児童は相手意識を持ち考え学びに向かうことができると予想される。

###### ②児童の実態

本市の児童は、低中学年では 35 時間、高学年では 70 時間の外国語活動の授業を経験している。ALT や担任の話す英語の大まかな意味を理解し、楽しく英語の授業に参加する児童が多い(※)。しかし、英語をもっと話せるようになりたいと思う児童が多い一方で、英語で話しかけた経験を持つ児童は少ない(※)。英語を活用する目的や場面を想定し、それに応じた英語を自ら思考し、判断し、表現できるよう授業を組み立てることで、自ら英語を活用することにつながると考えられる。

※令和2年度 英検 Jr.アンケート集計結果より

##### (3)指導観

本単元では、目的地への行きかたを尋ね、わかりやすく伝え合う言語活動に取り組む。これまでに学習した表現を使い目的地への案内の表現を無理なく自然に使える力を身につけさせたい。

なお、道案内で目的地を伝える時は方向を指す言葉や前置詞が、児童にとって難易度が高くないよう、取り扱う方向に関する言語材料は、児童が日常よく活用する「まっすぐ go straight,」「右へ曲がる turn right,」「左へ曲がる turn left,」「渡る cross,」「～側 It's on your～」の習得を目指した。

前置詞は「聞くこと」「話すこと」を中心に学習する児童にとっては、使うことが難しい面も

ある。そのため、ピクチャーカードで表現をまとめて表示することで、児童が言語の特徴を視覚的に捉えられるようにする。自ら捉えたことは教えられたことよりも身につくであろう。単元前半で、場所を尋ねたり伝え合う「聞くこと」「話すこと」の言語活動に取り組み、表現に十分に慣れ親しませた後、単元後半では、言いなれ建物を読んだり、書いたりする構成としてある。ただし、「読むこと」「書くこと」については、児童の負担感を考えて少しずつ慣れ親しむことが大切であることから、アルファベットを毎時間取り入れ、自分の名前を書くよう設定した。

#### 4 単元の評価基準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう態度
身近な場所の表し方や案内の表現、たずね方を知り言ったり書いたりした。	目的地までの行きかたをたずねたり案内をするやり取りをした。	他者に配慮しながら、わかりやすい案内をしようとした。

#### 5 単元の指導計画・評価計画

時間	主な評価基準(観点)	【評価方法】及び 支援が必要な児童への手だて	主な学習活動 本時の主な問題・課題
1	様々な場所の英語での表現を知り聞いたり言ったりした。(知・技)	ピクチャーカードの掲示 方向の音声に合わせて地図上で動かす。	目的地をたずね伝える。 行きかたを伝える表現にであう。
2	位置を表す前置詞を知り聞いたり言ったりした。(知・技)	カードの掲示 デモンストレーションによるインプット【観察】	音声をきいてイラストを正しい位置に置く。ボンゴゲームや聞き取りで表現になれる。
3 本時	相手を意識して地図をもとに校内の教室の場所を伝えることができる。(思・判・表)	カードの掲示 デモンストレーションによるインプット【観察】	伝える相手を意識してたずねられた教室の場所を案内するやり取りをする。
4	いくつかの地図記号を知り正しく書くことができた。(知・技)	カードの掲示・4線への記入 進む方向や地図、地図記号の掲示【観察・振り返りカード】	様々な道順を考えて伝え合おう。地図記号とその意味を知り4線の上に書く。
5	地図をもとに決められた場所へ相手を案内できた。(知・技)	カードの掲示・4線への記入 進む方向や地図の掲示 【観察・振り返りカード】	最短ルートを考えて道案内をしよう。
6	町の地図を作り目的地へわかりやすく案内をしようとしたことができた。(主体的に学ぶ態度)	カードの掲示・4線への記入 施設・建物シール、地図の掲示 【観察・振り返りカード】	自分の作った地図をもとに相手にわかりやすく案内をしよう。(伝え合おう・書いてみよう)

6 本時の指導「Where is the station?。」 (3/6 時間)

(1)ねらい 校内の地図をもとに友だちに教室の場所を伝えよう。

(2)本時の評価基準

相手を意識して地図をもとに校内の教室の場所を伝えることができる (思考力・判断力・表現力等)

(3)「めざす子どもの姿」の実現に向けた授業改善(教材・発問・問い返し・過程の工夫等)

○ピクチャーカードを掲示することにより、案内に必要な表現を使い自ら思考し判断し表現する児童となるだろう。

○過程の工夫：インプット→(全体での)アウトプット→思考・判断・表現するコミュニケーション

(4)展開

過程	学習活動・内容・発問等	予想される児童の反応	指導上の留意点・評価等
Warming up	<b>1 Greeting&amp; Rule</b> <b>2 Phonics / letter &amp; sounds</b> 「B ( b )」 <b>3 Small talk</b> 4 めあて	Where is my _? It' s _ the_.	
	校内の地図をもとに友だちに教室の場所を伝えよう		
Activity	<b>4 Sub Activity</b> ①Let's listen4 ( p 96) Introduce vocabulary (room in school) ②Listen & Guess what room they directed to. 教室の確認→予想→聞く→答え	Where is ~? Go straight Turn left / Turn right You can see it ~. イラストからのアウトプット 予想)	・インプット/アウトプット  ・インプット→(全体での)アウトプット→アウトプット ・話すモデルとしてのインプット
Conclusion	<b>5 Main Activity</b> ①Let' s talk 学校内の地図をもとに教室案内をする。 ペア - 中間評価 - 全体(2～3人) ② Criss Cross game 6 まとめ (挙手) 伝える相手のことを意識してみ案内ができたか。 振り返り(カードに記入) 7 次時(修学旅行について)	Turn～「右・左に曲がる」の英語が出てきそう by～ 「～の隣ができてきそう」  ペア) リアクション0・1 中間) リアクションを意識 全体) リアクション1・2・3	◎伝える相手のことを意識してみ案内ができた。(思判表)  【観察】 ・めあてと連動したまとめ・振り返り

## 掲示物の工夫 方向・教室



「建物や教室の言い方や方向の言い方を確認しよう」

図と合わせ文字も表示

## タブレットを使い案内する

ペアの動きや表情を見て相手を意識する。



A : Go straight

B : go straight

A: You can see the room on your left.

B: I can see the room on left.

## VII 成果・課題・改善策

### 1 成果

○知っている単語や表現で自分のことを伝えようと一生懸命に話す児童が増え、コミュニケーションへの意欲が高まった。(授業以外でも)

○実際の生活につながる場の設定で、自分の思いややりたいことなどを話すことができた。

○低学年は单元ごとに関連のある絵本やダンスを活用し、実態に合わせた授業ができた。

○他教科と関連付けた学習ができた。(生活科・総合的な学習の時間・図工・国語・算数)

○学校行事と関連付けた学習ができ、語彙や表現の習得が高まった。

(運動会・社会見学・修学旅行・学習発表会など)

○Thanksgiving や Christmas・Animal Zodiac (十二支) などの伝統や文化を学ぶことができた。

○英語ルームの整備(机・椅子・電子黒板)のおかげで気持ちを切り替え、授業がやりやすくなった。(1学期)

○单元づくりから英語担当や ALT と行うことで、打合せがスムーズで見通しをもった授業ができた。

### 2 課題(→改善策)

●高学年は教科化となり評価の難しさがある。→研修や評価補助簿を作成していただいたことで次年度の評価のしやすさにつながった。全教師への周知研修会への参加や校内研での研修を計画していきたい。

●学び合いや思いを伝えるのが苦手な児童がいる。→他教科との共通実践で、学習集団づくりを行う。

●振り返りの時間が十分に取れないことが多かった。

→授業導入の Greeting や Rules を簡素化(省略)して、Activity や振り返りの時間を確保したい。

●2 感染症対策をするなかでできるアクティビティーが制限された。→今年度は校内で他教科の活動などをみて話し合いを持ち活動内容を考えて行ったが、感染症対策における提案等があると助かる。